

(2) 全体構想

1) 要素図

全体構想の組み立てに先立ち、笛吹市全域を対象に、観光対象となる可能性のある資源の分布について整理することとした。ここではこれを「要素図」と呼ぶ。

要素図として整理したのは、次の10項目である。

- 要素図 1 : 先土器時代ー古代の遺跡等分布図
- 要素図 2 : 先土器時代ー古代の遺跡一覧表
- 要素図 3 : 果樹園とワイナリーの分布図
- 要素図 4 : 笛吹市文学碑分布図
- 要素図 5 : 公園貴重植物群生地と山梨百名山等をめぐるハイキングコース
- 要素図 6 : 笛吹市の神社仏閣と鎌倉街道・若彦路沿線文化財分布図
- 要素図 7 : 鎌倉街道沿線文化財分布図
- 要素図 8 : 若彦路沿線文化財分布図
- 要素図 9 : 石和温泉郷案内図
- 要素図 10 : 石和温泉郷 山辺と市街地 散策道マップ

これによれば、古代遺跡、果樹園、ワイナリー、文学碑、神社仏閣などの分布は、笛吹川左岸の段丘上に集中している。

ここは、笛吹川の支川日川、金川、浅川などによって形成された扇状地にあり、さらに笛吹川によって形成された河岸段丘上でもある。

東日本最大の古墳も存在するこの地は、甲斐の国発祥の地とされ、それだけに古代から中世に至る歴史遺産の宝庫である。

これは、甲府盆地に向かって張り出した高台が、古代の人々にとっていかに暮らしやすく、また作物も得やすい土地柄であったかを物語っている。

この河岸段丘面上を、南西ー北東に貫いているのが金川曾根広域農道である。古代遺跡、果樹園、ワイナリー、文学碑、神社仏閣等、これからの観光の対象となりうるこれらの資源の多くがその沿道に位置していることから、この農道が重要な域内観光

動線となることが予想される。

金川曾根広域農道と並び、この一帯の将来の観光動線として重要性を増すと考えられるのは、2筋の古道、つまり鎌倉街道と若彦路である。いずれも笛吹市を北西―南東に貫いており、金川曾根広域農道とほぼ直角に交わる。

甲斐の国を代表する寺社が沿道に控えているほか、道標、一里塚、道祖神、馬頭観音など、古くからの街道ならではの石造物が数多く分布し、趣き深い。鎌倉街道には、石畳道の残るところもある。

2筋の古道に沿って現道が通っており、道路としての本来的な機能は、今日ではあまり必要とされないため、観光面に特化した利用も十分に考えられる。周辺の自然環境、森林などとも一体性のある緑道的な空間として、活用が考えられる。

旧春日居町域も含め、石和温泉郷は平坦地にあり、周囲を住宅街に囲まれているところも少なくない。ブドウ園が介在するものの、温泉郷の内部には緑の空間がほとんどないため、潤いに乏しいとの指摘が多い。

これを補っているのが近津用水の水辺環境であり、現在進められているウッドデッキの完成により、少なくともさくら温泉通りについては、かなり改善されるものと期待される。

石和温泉郷の至近には、大蔵経寺山、兜山などの山梨百名山のもつ自然環境、その山裾に点在する大蔵経寺山、山梨岡神社などの歴史遺産、笈形焼きなどの伝統行事などがあるだけに、石和温泉郷に歩く観光をとりいれる上では、これらとの連携が成否の鍵を握ると考えられる。

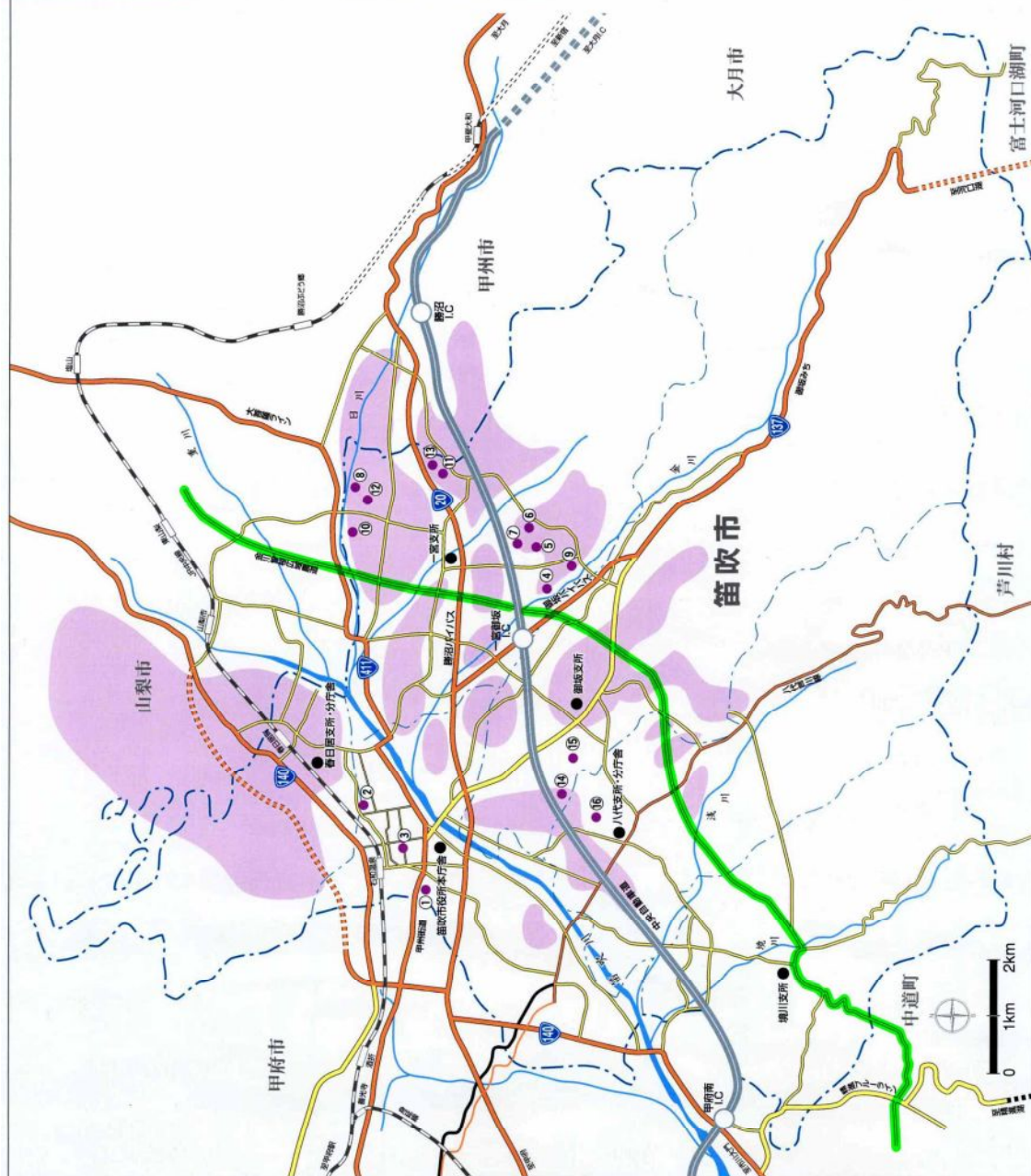
要素図 10 は、このような考え方のもと、石和温泉郷、北西側の山裾の環境、点在する果実園などをつなぐ散策ルートとして例示したものである。

先土器時代～古代の遺跡一覧表

時代	番号	遺跡名	出土資料・遺物の所在	展示の有無(有:○/無:×)	主な遺構・遺物・出土品	備考	
縄文	1	釈迦堂遺跡	釈迦堂遺跡博物館	○	住居跡 土偶	一宮町から勝沼町にまたがる遺跡。中央自動車道の建設に伴って発掘された。1116個の土偶が出土しており、全国のほぼ1割を占める。	
	2	桂野遺跡	富吹市教育委員会(八代分庁舎内) 御成町農村環境改善センター【展示】	○	縄文土器・水埴土器 竪穴住居跡 埴土製土偶	鴻文深鉢は御成町農村環境改善センターに展示されている。	
	3	三光遺跡	富吹市教育委員会(八代分庁舎内)	×	埴土製土偶	日本最大のにスイの飾りが出土した。	
	4	中丸遺跡	山梨県立考古博物館【展示】	○	黒駒土偶	本物は東京国立博物館に収蔵されており、県立考古博物館以外にも、復元されたものが国立歴史民俗博物館に展示されている。	
	5	釈迦堂遺跡群	釈迦堂遺跡博物館	○	住居跡 土偶	一宮町から勝沼町にまたがる遺跡。中央自動車道の建設に伴って発掘された。1116個の土偶が出土しており、全国のほぼ1割を占める。	
	6	豆塚遺跡	山梨県埋蔵文化財センター	×	住居跡 土器・土偶	縄文晩期前半の清水天王山式期のものは郡内地域で初めて確認された。	
	7	鏡子原遺跡	富吹市教育委員会(八代分庁舎内)	×	住居跡 土坑	縄文時代前期後葉～中期末にかけての大集落跡	
	8	花鳥山遺跡	山梨県埋蔵文化財センター 山梨県立考古博物館【展示】	○	住居跡 土坑 石器 人形土製土器	シカ・イノシシ等の獣骨やコイ科のセラ骨、クルミ等の堅果類が出土しており、縄文最盛期前のエゴマ(雑草)が発見された。	
	9	一の沢遺跡	山梨県立考古博物館【展示】 山梨県埋蔵文化財センター	○	集落跡・住居跡 古墳 土器・土偶	縄文時代中期中葉の大規模集落であり、出土した土器は日本の縄文土器の中で最もよいもの(造形美)である。	
	10	京原遺跡	境川町総合会館(一部展示)	○	住居跡	縄布(アメンギン)の編み目がついた粘土塊が確認された。	
	11	小黒坂南遺跡群	富吹市教育委員会(八代分庁舎内)	×	掘糸土器・押型土器・貝殻 縄文土器	縄文前期末葉～中期初頭の遺跡(寺平・亀の子・砂原山)が発見された。	
	弥生	12	水口遺跡	山梨県埋蔵文化財センター	×	住居跡 土器・土偶・土製品	土製耳飾や石棒等の祭祀的な様相の強いものが多く出土した。
13		観音清遺跡	山梨県埋蔵文化財センター	×	竪穴住居跡 手摺土器	弥生時代後期の集落の遺跡。	
14		身洗沢遺跡	山梨県埋蔵文化財センター	×	竪穴住居跡 水田跡 土器・木製品	山梨初の水田の遺跡。木製の農具が発見された。	
15		横町遺跡	山梨県埋蔵文化財センター	—	土器	埴の屋根に載っていた埴瓦等が発見された。	
16		寺の前古墳	春日居町郷土館	○	古墳	仏教最古の古墳。	
17		春日居古墳群	春日居町郷土館	○	横石塚 土器(副葬品)	全期で4基あり、古い時期の古墳は、山裾から中腹に存在し、新しい時期の古墳は、中腹より上方を中心に存在している。	
18		菅原塚3号墳	春日居町郷土館 現地	○	鉄剣(副葬品)	すべて内墳の横石塚古墳であり、山林内に所在。古墳は現地で保存されている。	
19		大蔵経寺山第15号墳	富吹市教育委員会(八代分庁舎内) 現地	○(現地見学のみ)	土師器・須恵器等の小破片 鉄剣	内墳の横石塚古墳である。古墳は現地で保存されている。	
20		地塚古墳	南照院境内	○(現地見学のみ)	—	東日本最大の横穴式古墳(円墳)である。現地に整備・保存されている。	
21		長田古墳群	富吹市教育委員会(八代分庁舎内)	×	土師器・須恵器 鉄製品・武器類	6世紀中葉から7世紀中葉を中心とした時期に造営された。20号墳のT字横穴式石室は県内唯一の発見例である。	
22		経塚古墳	現地(山梨県森林公園金川の森内) 山梨県埋蔵文化財センター	○(現地見学のみ)	鉄斧 甲斐型土器 土師器・須恵器 鉄製品 武器類	横穴式石室を持つ、八角形墳。天皇陵を中心に全国に十例ほどしかない。現地に整備・保存されている。	
23		四ツ塚古墳群	現地(山梨県森林公園金川の森内) 山梨県埋蔵文化財センター	○(現地見学のみ)	土師器・須恵器 鉄製品 武器類	ほとんどが円墳である。中央自動車道建設で調査された古墳は、全て消滅して残っていないが、山梨県森林公園金川の巻居原で調査された古墳は、復元保存されている。	
奈良	24	岡・鏡子塚古墳	八代町ふるさと公園内 富吹市教育委員会(八代分庁舎内)	○(現地見学のみ)	鉄製品 土器	町内最大規模の前方後円墳。玉塚古墳(円墳)とともに現地に整備・保存されている。	
	25	御崎古墳	八代町郷土館【展示】 富吹市教育委員会(八代分庁舎内)	○	須恵器 馬具 鉄製品	金銅製馬具・毛彫馬具やガラス玉等、全部で362点が出土した。現地で古墳を見ることはできない。	
	26	竜塚古墳	現地(竜安寺山丘陵上部)	○(現地見学のみ)	—	山梨県下で唯一明確に確認できるものであり、真上から見ると西角い形をした珍しい古墳(方墳)である。現地に整備・保存されている。	
	27	馬場山1・2号墳(八乙女塚古墳)	山梨県埋蔵文化財センター 山梨県立考古博物館	×	剣・直刀・鉄剣 須恵器片	1号墳はやや方形に近い円墳であり、2号墳は前方後円墳である。	
	28	松本塚の越遺跡	富吹市教育委員会(八代分庁舎内)	×	住居跡 土師器・須恵器 鉄製品	古墳・平安時代の集落。発見された場所は、現在ショッピングセンターが建立しているところであり、現地で見ることはできない。	
	29	南府遺跡	春日居町郷土館【展示】	○	灰化土 灰化炭	建物の時期は奈良時代～平安時代前期と推定される。	
	30	寺本薬師	春日居町郷土館【展示】 山梨県立考古博物館【展示】 現地【塚心塚のみ】	○	瓦類 土器類 銅器類	山梨最古の寺。寺域は約130m四方である。現在、現地では塚心塚が見られるだけである。	
	31	狐原遺跡	山梨県埋蔵文化財センター	×	竪穴住居跡 土坑 土師器	「玉井」の墨書のある土師器が出土した。	
	32	大原遺跡	富吹市教育委員会(八代分庁舎内) 現地【一部保存】	○(現地見学のみ)	竪穴住居跡 土師器・須恵器・手摺土器 墨書土器・硯 銅・石・骨・土製土器	県内、最大規模の遺跡。祭祀に使ったと思われる土器が100個以上、出土した。	
	33	甲斐国分寺跡/甲斐国分尼寺	山梨県埋蔵文化財センター 富吹市教育委員会(八代分庁舎内)	×	瓦・灯明皿 墨書土器 腰帯具	遺跡は臨濟宗妙心寺派蓮國山国分寺およびその周辺に残っている。北方約500mには甲斐国文尼寺跡がある。現在、現地整備中である。	
	平安	34	笠木地蔵遺跡	山梨県立考古博物館【一部展示】 山梨県埋蔵文化財センター	○	住居跡 土坑 白埴	瓦や鉢、釜などがセットで発見されており、このような資料が一括して確認された例は県内ではほとんどない。平安時代～中世にかけての集落の様相が確認できる。
		35	北中原遺跡	山梨県埋蔵文化財センター	×	竪穴住居跡 土坑 土師器・須恵器・墨書土器 瓦片・鉄製品・顔瓦	9世紀前半～11世紀前半までの遺跡である。縄文時代前期後半～晩期前半にかけての土器片や石器、中世以降の陶磁器なども出土している。
36		北坂遺跡	山梨県埋蔵文化財センター	×	住居跡 土坑 石器・鉄器・土師製瓦 字模	縄文時代の集落は二つの異なる文化を持つ住居跡が並存している。平安時代の集落が確認されている。	
37		筑前原遺跡	富吹市教育委員会(八代分庁舎内)	×	竪穴住居跡 中世陶磁 灰化穀物	筑前原の息としての土塁の構築時期は、大溝が埋められた後である。竪穴住居の宅地と呼ばれる遺構。	
38		西田町遺跡	富吹市教育委員会(八代分庁舎内)	×	竪穴住居跡 土坑・溝跡 瓦器類・陶産陶器・地元産土師器土器	縄文・奈良・平安・鎌倉の各時代の遺構が広がっている。現在、本遺跡にはショッピングセンターが建設されており、現地で見ることはできない。	
39		東新居遺跡	山梨県埋蔵文化財センター	×	竪穴住居跡 土師器・土師質土器・灰輪陶	平安時代の遺跡である。	
40		瑞伽寺	山梨県埋蔵文化財センター	×	布目瓦・灰輪の広口壺・青銅品	現在の瑞伽寺の西側に隣接した旧寺域から遺構・遺物が発見された。	
41		石橋条里遺跡	山梨県埋蔵文化財センター	×	家屋形地割跡・竪穴住居跡 土師器・須恵器・瓦質土器 木製品・灰輪陶器・青銅・壺	大化の改新後から10世紀の初頃までにつくられた条里跡。	

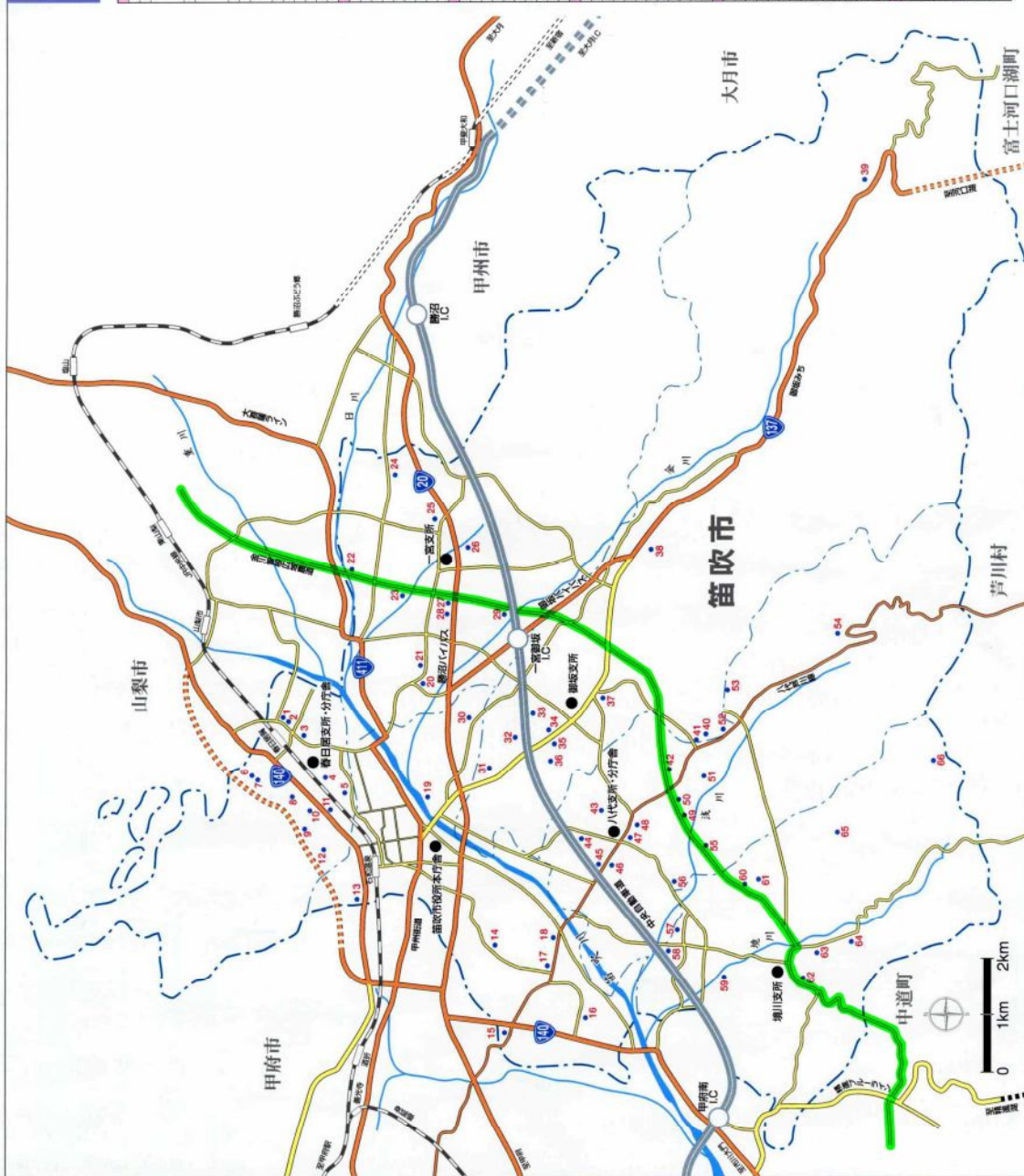
果樹園と ワイナリーの 分布図

1. 軍配醸造(株)
2. 本坊醸造マルス山梨ワイナリー
3. モンテ醸造(株)
4. アサヒビールワイナリー(株)
5. 新巻醸造(株)
6. アルプスワイン(株)
7. 北野白醸造(有)
8. スズラン醸造工業(有)
9. 日川中央葡萄酒(株)
10. 丸一葡萄酒醸造所
11. (有)モントナーヌワイン
12. 矢作洋酒(株)
13. (株)ルミエール
14. ニュー山梨ワイン醸造(株)
15. 笛吹ワイン(株)
16. 八代醸造(株)



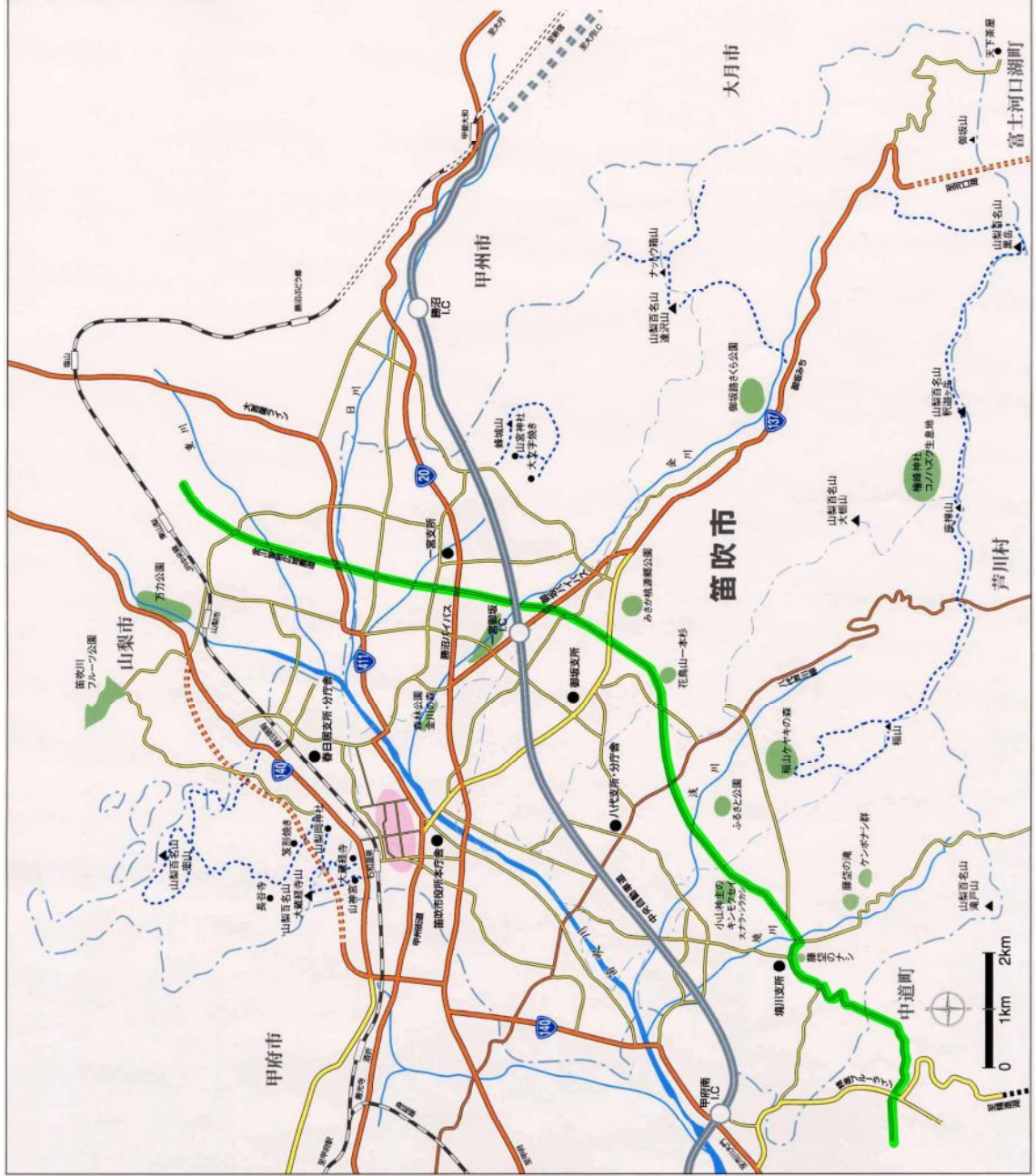
笛吹市 文学碑 分布图

番号	文学碑名	所在地
1	春日原の文学碑	春日原
2	春日原の文学碑	春日原
3	春日原の文学碑	春日原
4	春日原の文学碑	春日原
5	春日原の文学碑	春日原
6	春日原の文学碑	春日原
7	春日原の文学碑	春日原
8	春日原の文学碑	春日原
9	春日原の文学碑	春日原
10	春日原の文学碑	春日原
11	春日原の文学碑	春日原
12	春日原の文学碑	春日原
13	春日原の文学碑	春日原
14	春日原の文学碑	春日原
15	春日原の文学碑	春日原
16	春日原の文学碑	春日原
17	春日原の文学碑	春日原
18	春日原の文学碑	春日原
19	春日原の文学碑	春日原
20	春日原の文学碑	春日原
21	春日原の文学碑	春日原
22	春日原の文学碑	春日原
23	春日原の文学碑	春日原
24	春日原の文学碑	春日原
25	春日原の文学碑	春日原
26	春日原の文学碑	春日原
27	春日原の文学碑	春日原
28	春日原の文学碑	春日原
29	春日原の文学碑	春日原
30	春日原の文学碑	春日原
31	春日原の文学碑	春日原
32	春日原の文学碑	春日原
33	春日原の文学碑	春日原
34	春日原の文学碑	春日原
35	春日原の文学碑	春日原
36	春日原の文学碑	春日原
37	春日原の文学碑	春日原
38	春日原の文学碑	春日原
39	春日原の文学碑	春日原
40	春日原の文学碑	春日原
41	春日原の文学碑	春日原
42	春日原の文学碑	春日原
43	春日原の文学碑	春日原
44	春日原の文学碑	春日原
45	春日原の文学碑	春日原
46	春日原の文学碑	春日原
47	春日原の文学碑	春日原
48	春日原の文学碑	春日原
49	春日原の文学碑	春日原
50	春日原の文学碑	春日原
51	春日原の文学碑	春日原
52	春日原の文学碑	春日原
53	春日原の文学碑	春日原
54	春日原の文学碑	春日原
55	春日原の文学碑	春日原
56	春日原の文学碑	春日原
57	春日原の文学碑	春日原
58	春日原の文学碑	春日原
59	春日原の文学碑	春日原
60	春日原の文学碑	春日原
61	春日原の文学碑	春日原
62	春日原の文学碑	春日原
63	春日原の文学碑	春日原
64	春日原の文学碑	春日原
65	春日原の文学碑	春日原
66	春日原の文学碑	春日原



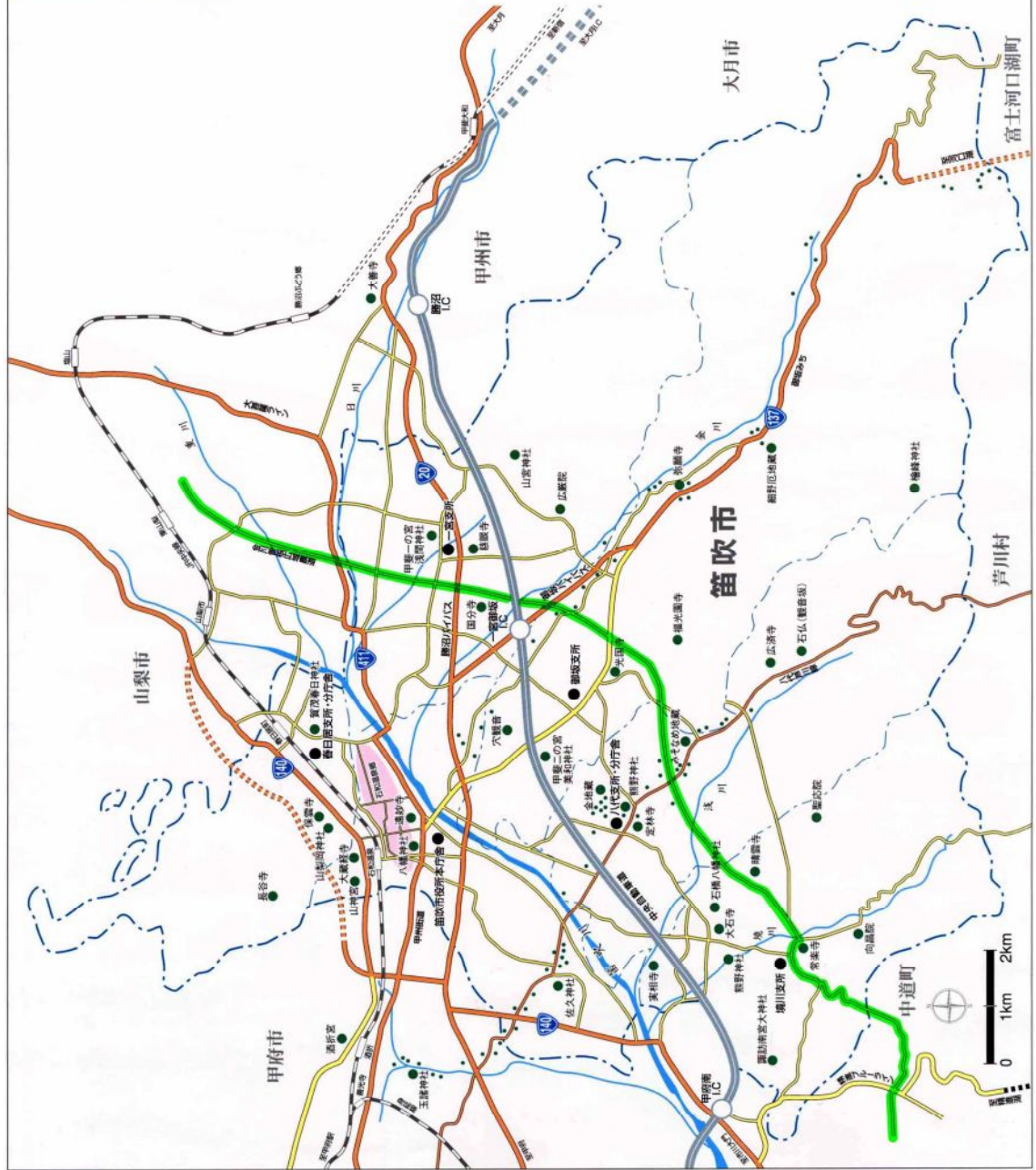
公園・貴重植物
群生地と
山梨百名山等を
めぐる
ハイキングコース

- 公園
- 貴重植物群生地
- ⋯ ハイキングコース
- ▲ 山梨百名山
- ▲ 有名山



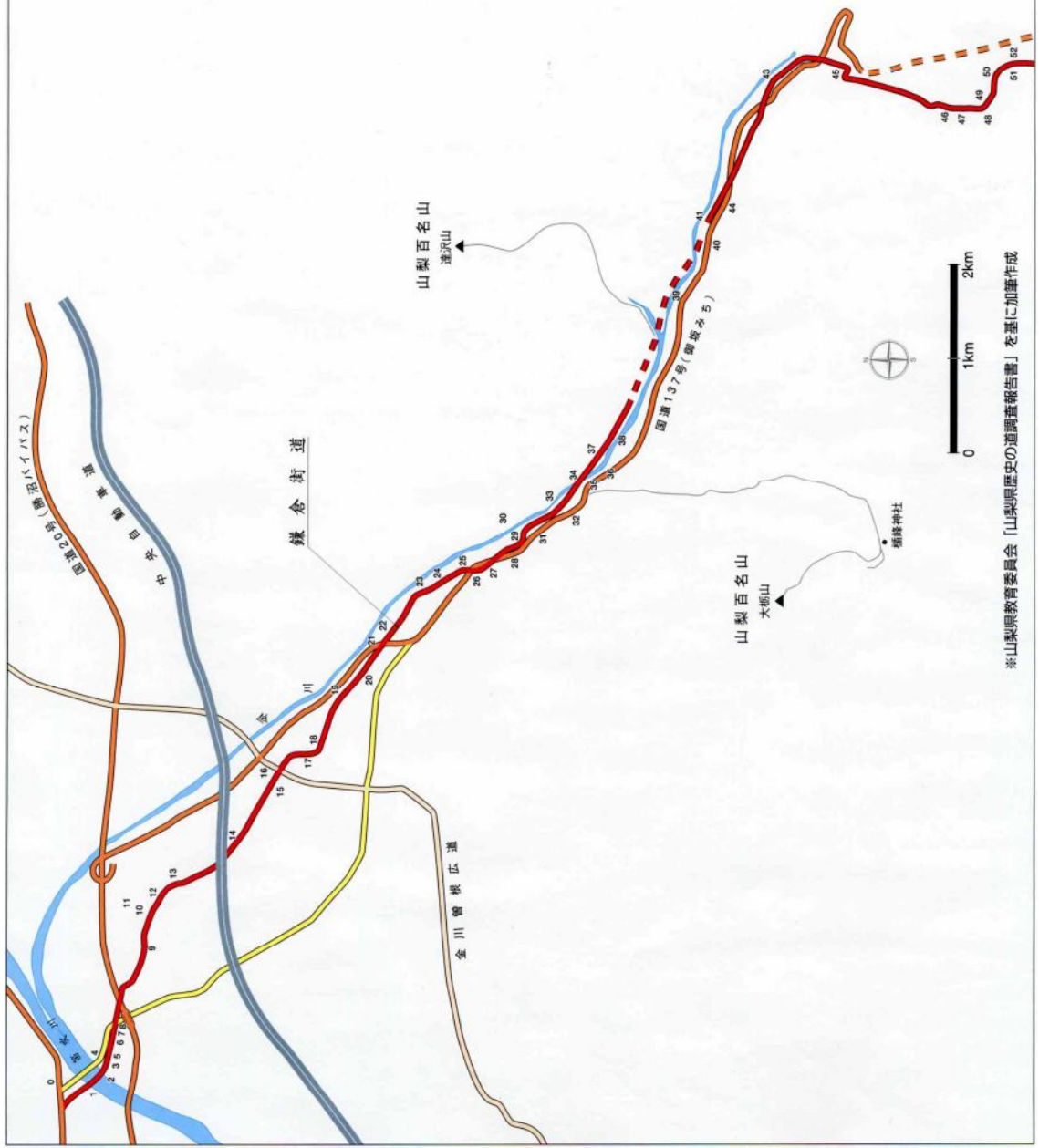
笛吹市の
神社仏閣と
鎌倉街道・若彦路
沿線 文化財
分布図

- 主要神社・仏閣
- 古道沿線文化財

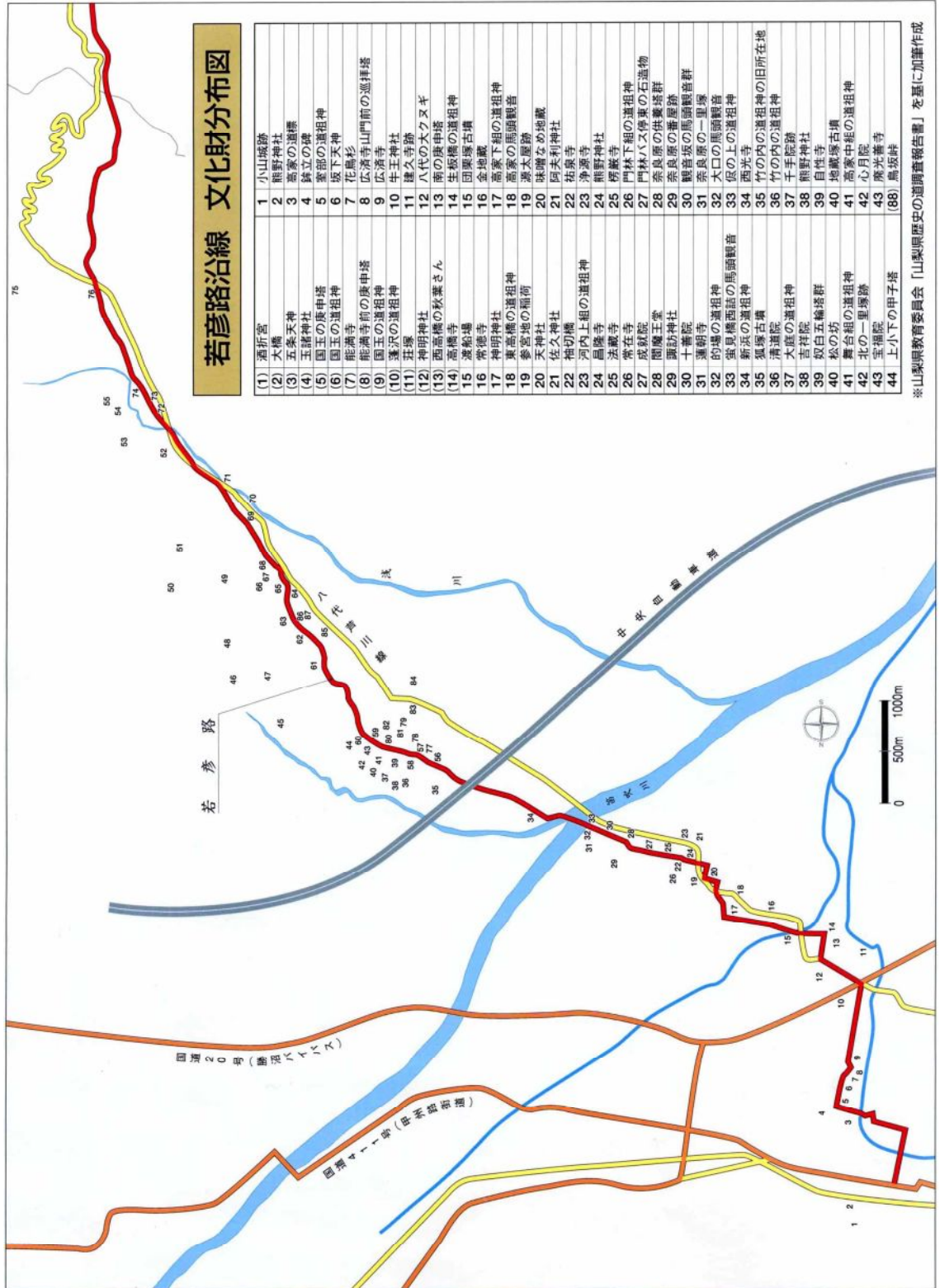


鎌倉街道沿線 文化財分布図

0	鶴洞山運妙寺
1	川向の道祖神
2	東町七組の道祖神
3	法泉寺
4	長塚の道祖神
5	長塚の地蔵
6	長塚の道標
7	下平井七組の道祖神
8	長塚の道祖神
9	九品寺
10	世音寺入口の石造物群
11	日当神社
12	中川の馬頭観音
13	中山道分岐点の道標
14	下全川原の道祖神
15	仰雲土湊開神社
16	上全川原交差点の石造物
17	長田の道祖神
18	長田の道標
19	町屋の度申塔
20	下黒駒の大ヒナイギ
21	下黒駒の石幢
22	若宮入口の馬頭観音
23	若宮三善路の道標
24	若宮の日待塔
25	若宮の道祖神
26	駒止の道標
27	駒止の道祖神
28	駒止の石仏
29	道場町の道祖神
30	松籠寺
31	道場の石造物
32	堀野の道祖神
33	堀野の馬頭観音
34	新上宿の道祖神
35	新上宿の巡拝塔
36	権堂神社
37	戸倉神社
38	戸倉の名号塔
39	駒木戸の口留番所
40	新田の石黒道標
41	唐沼川道の道標
42	新田の道標
43	藤野木入口の馬頭観音
44	榎井院
45	山宮神社
46	行者平
47	行者平の馬頭観音
48	御坂林の石黒
49	御坂林の馬頭観音
50	子持石
51	御坂天神
52	御坂城跡



※山梨県教育委員会「山梨県歴史の道調査報告書」を基に加筆作成



若彦路沿線 文化財分布図

(1) 酒折宮	1 小山城跡
(2) 大橋	2 熊野神社
(3) 五穀天神	3 高家の道標
(4) 五龍神社	4 跡立の碑
(5) 国玉の庚申塔	5 室部の道祖神
(6) 国玉の道祖神	6 坂下天神
(7) 熊鷹寺	7 花鳥杉
(8) 熊鷹寺前の庚申塔	8 広濟寺山門前の巡拝塔
(9) 国玉の道祖神	9 広濟寺
(10) 淺沼の道祖神	10 生王神社
(11) 狹邊	11 建久寺跡
(12) 神明神社	12 八代の大クスギ
(13) 西高橋の秋葉さん	13 南の庚申塔
(14) 高橋寺	14 生駒橋の道祖神
(15) 渡船場	15 団栗露古墳
(16) 常徳寺	16 金地蔵
(17) 神明神社	17 高家下組の道祖神
(18) 東高橋の道祖神	18 高家の馬頭観音
(19) 養老川の福尚	19 源本屋跡
(20) 五柳社	20 味増なめ地蔵
(21) 佐久神社	21 阿天利神社
(22) 袖切橋	22 祐泉寺
(23) 河内上組の道祖神	23 浄源寺
(24) 昌隆寺	24 熊野神社
(25) 法蔵寺	25 勝蔵寺
(26) 常在寺	26 門林下組の道祖神
(27) 成賢院	27 門林バス停車の石造物
(28) 開隆王宮	28 奈良原の供養塔群
(29) 諏訪神社	29 奈良原の番屋跡
(30) 十善院	30 觀音坂の馬頭観音群
(31) 蓮華寺	31 奈良原の一里塚
(32) 的場の道祖神	32 大口の馬頭観音
(33) 強見橋西詰の馬頭観音	33 底の上の道祖神
(34) 新浜の道祖神	34 西光寺
(35) 狹邊古墳	35 竹の内の道祖神の旧所在地
(36) 清道院	36 竹の内の道祖神
(37) 丸磨の道祖神	37 千手院跡
(38) 吉社院	38 熊野神社
(39) 奴白五輪塔群	39 自性寺
(40) 松の坊	40 地蔵露古墳
(41) 舞合組の道祖神	41 高家中組の道祖神
(42) 北の一里塚跡	42 心月院
(43) 宝福院	43 廣光養寺
(44) 上小下の甲子塔	(88) 鳥坂峠

※山梨県教育委員会「山梨県歴史の道調査報告書」を基に加筆作成

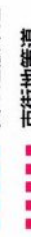
石和温泉郷 山の辺と 市街地散策マップ

旅館ホテル
立地ゾーン



桃畑

山の辺散策道



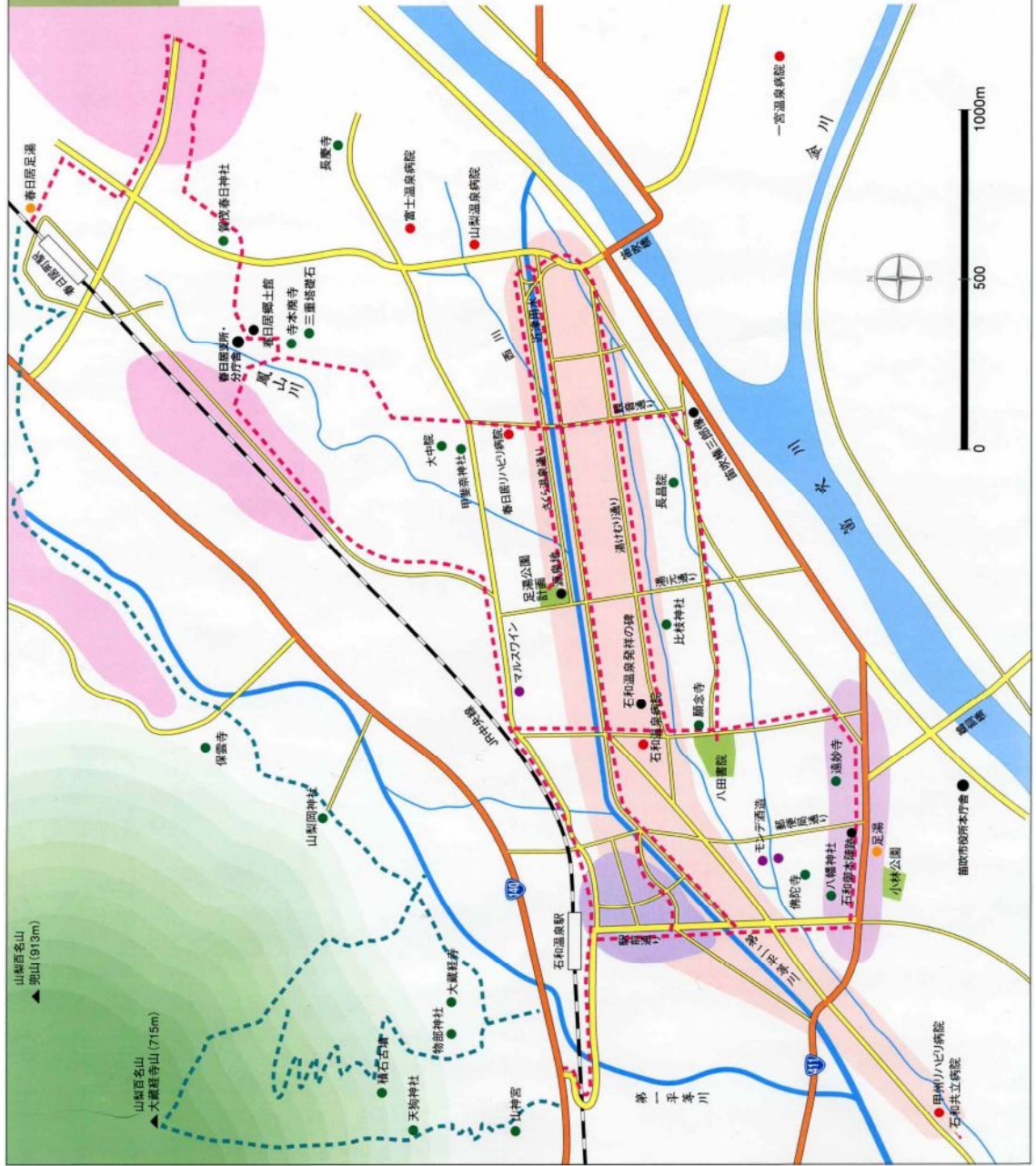
市街地策道

神社・仏閣等

温泉病院 (7カ所)

足湯

ワイナリー



2) 観光地形成の基本的な方向性

これまでの検討結果から、旧6町村の行政域における資源性に着目して観光地形成の基本的な方向を示すと、次のようになる。

表 旧6町村の行政域における資源性にもとづく観光地形成の基本的な方向

町域区分	旧町村内の資源性にもとづく観光地形成の基本的な方向
石和町域	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉資源の多面的な利用 ・観光拠点としての機能の充実 ・埋もれた歴史・文化資源の発掘と観光対象化 ・春日居町域と一体化した観光地形成
一宮町域	<ul style="list-style-type: none"> ・甲斐国を代表する豊かな歴史・文化資源の観光的活用 ・ぶどう栽培からワイン醸造に至る伝統ある地域文化の観光的活用 ・なだらかな山裾を活用したレクリエーション空間の創出
春日居町域	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史と果樹と山裾の空間を活用した観光地形成（古道の発掘を含む） ・石和温泉地域と一体化した観光地形成
境川町域	<ul style="list-style-type: none"> ・恵まれた自然資源を活用した観光地形成 ・自然と融合した文学の舞台としての資質を活用した観光地形成
御坂町域	<ul style="list-style-type: none"> ・笛吹川から天下茶屋に至る古道と沿道文化遺産を活用した歴史街道公園 ・バイパス完成後の現国道を利用した遊歩道ネットワークの形成 ・既設公園の拠点機能の強化による観光地形成
八代町域	<ul style="list-style-type: none"> ・若彦路をたどる緑道公園 ・古墳周辺の拠点機能の強化による観光地形成

3) 全体構想

石和温泉郷の観光地再生のためには、石和温泉郷という狭いエリアにおける観光資源の発掘・演出だけでは観光的魅力の創出という意味で限界があり、石和温泉郷に近接するエリアに点在する独自の資源性もとりのれた広域的な取り組みが必要である。幸い旧6町村は合併し観光の活性化が共通目標のひとつともなり、これまでにない広域的な観光計画を組み立てることも可能になった。

ここでは、石和温泉郷の再生を笛吹市全域における観光の浮沈の鍵を握っていると基本的な認識から、石和温泉郷の再生のために笛吹市全域をその最も身近なバックボーンとしていかに活用していったらいいのかについて考え方を示す。

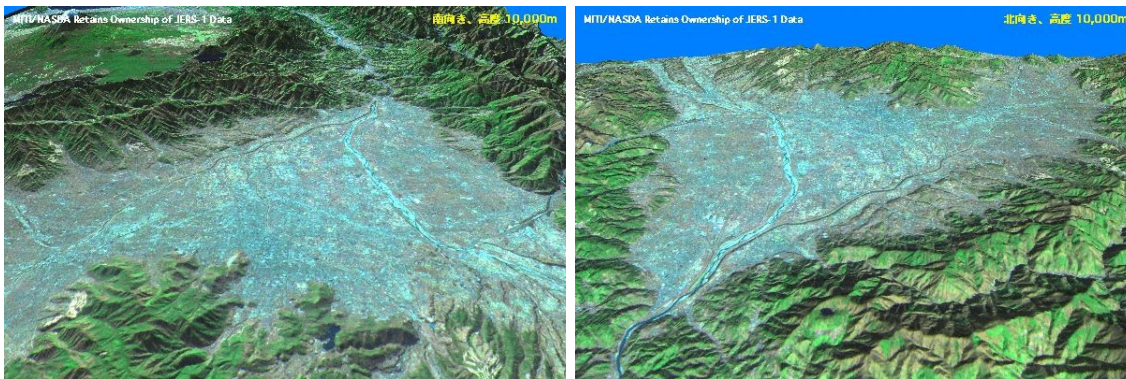
①. 笛吹市の地勢のイメージ

笛吹川左岸は、金川をはじめとする笛吹川支川によって形成された扇状地と笛吹川によって形成された明白な河岸段丘が折り重なり、あたかも甲府盆地という劇場へせり出した舞台の様相を呈する。

古代人たちは、盆地一帯を睥睨するかのようなこの高台を、迷うことなく終の住処と決めたであろうことが、容易に想像できる。

この高台が甲斐の国の発祥の地とされていることに、何の疑問を差し挟む余地もない。

このせり出し舞台を仮に「甲斐 国見のテラス」と呼ぶことにする。



地球観測衛星 JERS-1（ふよう1号）で撮影した甲府盆地周辺のようす（1993年11月25日）

（左側：北側から南向きに眺めた写真）

（右側：南側から北向きに眺めた写真）

http://www2.jyose.pref.okayama.jp/cec/eisei_sekainotikei/03_tikei_3d/02_senzyouti/idx1211153912.htm

一宮、御坂、八代、境川の各町域は、この「甲斐 国見のテラス」上にあり、春日居町域と石和町域とがその基盤面に位置する格好となる。

②. ゾーン区分

■ A ゾーン（石和温泉郷ゾーン）

石和温泉郷を中心とした地域で春日居町域を含む。

山梨県内最大の温泉観光地であり、一大宿泊拠点を形成している。もてる豊富な温泉資源と宿泊機能の集積を最大限に生かし、宿泊拠点としての地位を不動のものにする。

まず観光の中心である温泉についてであるが、全国には、温泉の他にはこれといった魅力がなくても、集客力のある温泉が現にある。これにはもちろん、経営者自身が自覚し温泉を甦らせる不断の努力をおこなうことが必要である。最近人気があるかけ流しの湯については一部ですでに導入しているが、温泉郷全体としても検討する価値がある。気軽に入れる温泉などを紹介したマップも喜ばれるであろう。

これまで、石和温泉郷は個人客を避け団体型で推移してきたが、これからの観光では、30室程度の宿泊施設（旅館らしい旅館）が好まれるものと見られる。旅館側がこのようなニーズの変化に応じて変わることが必要であり、このためにはマーケティングが重要である。

石和温泉郷への来訪観光客の3割を占めるとされる鉄道利用を考慮し、その玄関口にあたる石和温泉駅については、交通結節点としての機能の充実と石和温泉郷および笛吹市内各観光地に関する情報サービス機能の確保を図る必要がある。

具体的な観光情報サービスで取り急ぎ出来そうに必要なものの例として、正確なマップづくりがあげられる。地形がデフォルメされず、グリッド入りで距離感がきちんとつかめるような、正確なマップづくりである。石和温泉の旅館・ホテルで行われている、放置自転車を利用したリサイクル自転車の貸し出しなどの情報もこのマップに盛り込みたい。（リサイクル自転車の活用については、現在、法制度や都市基盤などの面で壁があるため、制度的な部分については、特区の活用という方法も考えられる。）

また、朝市にしろ、温泉にしろ、観光客にはもちろん、一般住民にもアピールする、喜ばれるようなものにする必要がある。市民に愛される観光地でなければ生き残れない。

大蔵経寺山は富士山の眺望や夜景が優れた、隠れた観光スポットである。このような景観のスポットを生かすことも重要である。

なおこのゾーンは、「甲斐 国見のテラス」上のBC2つのゾーンと山麓のDゾーンへの玄関口（発信地）にあたることから、笛吹市全域についての観光情報サービスの充実が必要である。

またとかく批判の多いサービス業関係者の接遇の洗練など、ソフト面での課題にも取り組む必要がある。もてなしの心の育成については、経営者の自覚が第一に必要であり、その上で、従業員研修を充実させることが重要である。京都や宮崎などに好例がある。

石和温泉郷だけでなく笛吹市全体の印象を決定づけるゾーンであるため、石和温泉郷周辺に点在する観光資源の発掘・演出を積極的に行い、観光資源をじっくり時間をかけて巡るきめ細かい散策ネットワークの構築を図る。

■Bゾーン（国見テラス東ゾーン）

石和温泉郷から約4kmの位置にある、市内一宮町、御坂町を中心としたゾーン。

甲斐の国発祥の地にふさわしく、古代遺跡群や神社仏閣、文学碑など歴史遺産が重層に分布する。

我が国屈指の果樹地帯でもあり、古くからワインの醸造が行われている。現在13のワイナリーがある。

歩く観光をはじめとする「じっくり時間をかけて巡る観光」への志向の高まりから、古代から現代にわたる多彩な歴史遺産を巡る特色ある散策コースを設定し、またコース環境の整備を進める。

一宮・御坂インターチェンジは、自動車利用の場合の笛吹市への玄関口であり、石和温泉駅と並ぶ交通拠点にあたることから、駐車場等の交通結節点としての機能の整備を図る。さらに、笛吹市全域の観光に関する情報サービスの充実を図る必要がある。が求められる。

■Cゾーン（国見テラス西ゾーン）

笛吹市で最も自然環境が豊かなゾーンである。

笛吹市を1軒の住宅と見なすなら、このゾーンは奥座敷に相当すると考えることが

できる。

優れた自然環境を生かし、境川の山里風景を詠んだ名句で知られる俳人蛇笏の生家を中心に、文学碑、貴重な植物の見られる自然公園、古代遺跡等を包括する「文化の古里（ふるさと）」として性格づける。

笛吹市の奥座敷にふさわしく、山稜に囲まれた地形、静謐な環境、奥深い自然等のできるだけあるがままに保全し、石和温泉郷と連携した観光による活性化方策を模索する。

また俳人「飯田蛇忽」を輩出した土地柄である縁から平成9年にスタートした「小学生中学生俳句会」が今では全国規模に発展している。このような農村部にある固有の文化を観光に生かすことについても検討する必要がある。

また、農業を利用した観光の仕掛けづくりについては、国土交通省や農林水産省で施策を用意している。農村らしさが採択要件なら笛吹市も可能性がある。農村環境を利用した農業観光の導入は、例えば農村体験を目的として訪れた人々が温泉に流れる可能性もあることから、結局は石和温泉郷での観光を奥行きのあるものとする。

■Dゾーン（山麓ゾーン）

笛吹市の南東端にあたり御坂山地の一角を形成する。

標高 1,000mを超える数多くの山梨百名山を擁する山岳地帯であることから、塾度に応じた山歩きを楽しむことができるゾーンとして位置づける。

名づけて「健康トレッキングゾーン」。

健康とまちづくりをキーワードとする石和温泉郷にとっては、発展的なトレーニングの場として活用することが可能と考えられる。このため、「健康トレッキング」を軸とした観光の誘導を図る。

③. 主要動線

■金川広域農道

国見テラスの先端部、笛吹川の河岸段丘上を走る金川広域農道。

石和温泉郷を中心とするAゾーンとテラス上に位置するB～Dゾーンとを結ぶ観光コリドーとして、主要結節点の整備（駐車場、情報発信機能、便益施設等）と併せ、散策路網の設定と環境整備が期待される。

■古道軸Ⅰ（鎌倉街道）

沿線に残る数多くの文化財を観光対象化し、これらをつなぐ連続性ある古道の再生をめざす。

山梨県全体の中での主要な観光動線と位置づけ、河口湖から富士山へとつながる国道の整備と併せ、古道にふさわしい道路環境整備、案内誘導設備の整備などが期待される。

■古道軸Ⅱ（若彦路）

甲斐の国で最古の道「若彦路」。

古代の記憶が多く残る若彦路は、文化の古里を中心に、南は、古来から笛吹市とも縁が深い芦川村を經由して富士山に至り、また北は、県都甲府市へと導く、鎌倉街道と並ぶ重要動線。鎌倉街道とひと味違う古道環境の創出を図る。

なお、これらの主要動線については、沿道における駐車場の整備、駐車帯の設置、きめ細かいサインや案内板の設置、安全・安心して利用できる歩道や自転車道の整備など、観光利用を最大限重視した整備を図ることが求められる。

ここにあげた以外でも、幹線的な動線については、主要動線に準じた整備を図り、笛吹市全域において「じっくり時間をかけて巡る観光」のための道路ネットワークを形成する必要がある。

